

令和7年度（2025年度）第2回
箕面市立図書館協議会会議録

箕面市立図書館

1 日 時 令和8年(2026年)3月13日(金)
開会 午前10時 閉会 午前11時30分

2 場 所 箕面市立中央図書館 2階 視聴覚室

3 出席委員	渡邊	智山	会長
	日根	真理	副会長
	中西	庸介	委員
	森	美由紀	委員
	片岡	章彦	委員
	前田	名保恵	委員
	山本	亜希	委員

4 傍聴者の有無 なし

5 出席職員	多々	摂子	中央図書館長
	小松	紀子	東図書館長
	廣瀬	武	西南図書館長
	水原	壽美	小野原図書館長
	檜原	啓一	船場図書館長
	坂上	未希	中央図書館室長補佐
	鳥越	香	中央図書館参事
	大迫	美恵子	中央図書館副参事
	渡部	笑歩	中央図書館職員

6 議事日程

日程第1(案件第1号)
令和7年度の取り組みと次年度の方向性

日程第2(案件第2号)
その他
→次年度の予算の概要と方向性について説明

【会議次第】

日程第1(案件第1号)
令和7年度の取り組みと次年度の方向性

事務局より西南図書館の活性化と令和7年度に実施した事業について説明。

- 会 長： ただいまの説明に対して、ご質問やご要望はないか。
- 委 員： 西南図書館は子どもたちが楽しめる機会をたくさんつくっており、毎年ステップアップしていて評価している。子どもの居場所づくりの取り組みとして、22時まで開館しているが、夜間になるので子どもの発育に影響が出るのではないか。どのようなイメージで取り組まれているのか。また子どもが来館するきっかけや利用状況を知りたい。
- 事務局： 大阪府の青少年健全育成条例の主旨を踏まえてこもれびひろばや自習室も子どもの利用は20時までとしている。夜間も管理スタッフが常駐しているので、小中学生が20時までに帰るよう声かけをしており、基本的に20時以降に中学生以下の子どもがいることはない。保護者さんにも安心感あるの居場所運営をしている。実態では小学生は18時頃には帰宅している。子どもの利用のきっかけとしては、校区内の学校に周知をお願いしたり、同学年の子ども同士の口コミで広まっているようである。今年度はモデル事業であるので、課題も考えつつ、放課後の居場所として継続していく。
- 委 員： 学校側も図書館の取り組みを認知したのが最近だったので、図書館見学だけでなく、図書館とこれからも交流を深めていきたい。こもれびひろばの子どもの預かりは登録制なのか。
- 事務局： お試しという形で随時参加できるが、基本的に登録制である。何かあった時に連絡できるよう、緊急連絡先などを聞いている。視聴覚室での居場所づくりに関しては、引き続き全ての世代の人にとって利用しやすく、寛げる図書館となるよう心がけていきたい。子どもの安心を最優先に、預かりではなく居場所という形で提供している。参加の時間帯などもアップデートしていきたい。発信について学校にも協力いただいきたい。
- 会 長： 子ども居場所事業の利用頻度のデータはあるのか。モデル事業として国の予算で行っている事業のため、今後続けていただきたい。ニーズの高い事業のため、図書館の事業として今後も継続していければ良いと思う。
- 副会長： こもれびひろばは視聴覚室を使用しているのか。登録数も知りたい。
- 事務局： 毎回利用者数をデータとして取っている。こもれびひろばは30人規模の会議室を使用している。登録数は2月末のデータで58人であった。視聴覚室は日中から21時まで使用できるが、17時以降は自習専用として活用している。
- 委 員： ボードゲームはどのくらいの種類があるのか。選定基準も教えてほしい。
- 事務局： 西南図書館は15点所蔵している。選定基準は初期は市の職員で選んでいたが、最近ではこもれびひろばに来る子どもからも要望を聞いて選んでいる。今後もバ

ラエティに富んだ物を選んでいきたい。

事務局より船場図書館の令和7年度に実施した事業について説明。

船場図書館のイベント、大阪大学エコ・レンジャーの活動

委員： 小学生の障がいのある子どもがいるが、エコレンジャーなどの取り組みを知らなかった。障がいを持った子どもたちは、必要とされていることや社会の役に立つと実感することはとても励みになるので、療育施設などに広めていきたい。

また、中学生の子どもが紙の辞書を使用せず、iPadで調べることが多いので親として迷うところがある。春休みに船場図書館で実施予定のたほいやバトルの参加も子どもに促したい。

副会長： 生涯学習センターと共同でのイベントはどのくらいの頻度で行っているのか。

事務局： 年2回は学セン主催の講座に図書館も協力している。今までは生涯学習センター主催の地域資料を調べる講座で、船場図書館職員が市民に対して、資料の検索方法をレクチャーする機会があった。阪大では、情報探索について図書館職員が学生にレクチャーしており、その経験が生かされている。今年は子ども向けの講座で連携できないかということで、たほいやバトルを行うことになった。

委員： せんばこどもたぶんかクラブは何人ぐらいの子どもが来ているのか。どのような支援の仕方をしているのか。

事務局： 週に1回の開催で2人から10人來ている。子どもたちが何語をルーツとするのかや、年齢や興味によってもやりたいことが異なる。その日來た子どもたちの興味関心に合わせて、国際交流協会のスタッフと阪大の学生や卒業生からなる阪大ふくふくセンターのメンター登録者が中心となり、楽しく学びながら時間を過ごすイベントになっている。図書館が場所として選ばれた理由として、アクセスのしやすさや、図書館への入館のしやすさ、阪大との連携が挙げられる。子どもたちの興味関心と大人のアイディアで臨機応変に行っている。

委員： 以前、船場図書館の会議室を借りた。船場図書館は知的なイベントが多いイメージがあるが、小学生の子どもなども過ごしやすい環境があるのか。

事務局： 2階に市の蔵書があり、その児童書コーナーににぎやかエリアがある。低学年の子どもはそちらを利用されていることが多い。中高生の持ち込みの自習は3、4階の自習専用席でお願いしている。エリアによって分けているので老若男女問わず居場所の提供ができていると思う。

委員： 小学校でも全く日本語がわからない子どもがいると聞いた。外国にルーツを持つ子どもは増えており、言語や学校の授業についていけないと認識しているので、学校側と協力して周知していくことがよいと思う。

事務局： 利用者を増やすことは現在予定はないと聞いているが、必要としている人にこ

の情報を伝えていきたい。せんばこどもたぶんかクラブは箕面市国際交流協会が主催している事業のため、伝達する。

会 長： 図書館の本の修理などは障がい者団体に委託しているのか。応募者も多いのか。

事務局： 委託事業として豊能障害者労働センターに、本にビニールカバーをかける作業や、除籍した資料の IC タグを外してもらう作業を行ってもらっている。豊能障害者労働センターが市内の事業所に再委託して、作業賃を年間を通して払っている。就労支援の場として、中央図書館の返却された本を配架する作業や、テラスの清掃作業も行ってもらっている。本の配架作業は場所も図書館なので実際に働いた人は安心感があると聞いている。タグを外す作業はいろいろな本を見ることができるので、皆さん楽しんで行っていると聞いている。

日程第 2 (案件第 2 号)

その他

事務局より来年度の予算の概要、機構改革について説明

会 長： 市長部局所管となり、図書館もさらに進化を続けることと思う。所管が変わることで図書館サービスが変わるものではないと前回に続き図書館側からの説明を聞いているので、来年度も引き続き図書館サービスに注力していただきたい。